

第6学年2組 道徳学習指導案

日時：平成29年11月7日（火）

児童：男子21名 女子15名 計36名

指導者：岡本ひとみ

- 1 主題名 きまりを守る 4 - (1)規則尊重・公德心・権利義務
- 2 資料名 図書館員のなやみ（「6年生の道徳」文溪堂・一部省略）
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、進んで義務を果たす。」をねらいとしたものである。集団生活で成り立っている社会には、法やきまりが存在する。法やきまりを守るという義務を遂行した上で、個人の権利も守られているのである。自分の権利ばかり主張して義務を遂行しなければ、社会が成り立たず、個人が幸せに暮らすこともできない。

昨今、公共物への落書きやごみの不法投棄、交通ルールの無視など、周りのことを考えない自分勝手な行動がニュースや新聞で報じられている。自分の浅はかな考えや行動がどれだけ周りの人々の迷惑になっているか、他の人の権利を奪っているかに気づいていない者もいる。自分さえよければよいと考えるのではなく、不特定多数の人々に配慮しようとする公德心を養い、規範意識を育てることが必要である。

(2) 児童の実態について

本学級は、規範意識をもち、きまりをきちんと守って生活している児童が多い。日常の中で、きまりを守れていない友だちに注意している姿もよく見られる。しかし、きまりを守る大切さは理解していても、自分がしていることに夢中になりすぎて結果的にきまりを守れないこともある。きまりを守れずに注意された時に「自分だけではない」と言う言葉も聞かれる。また、きまりは守れていても、自分でマナーを考えて周りに配慮をするという点では、まだ十分とはいえない。どうしたらみんなが気持ちよく生活できるか、きまりを守るだけでなく、一人ひとりがマナーを考えて行動することの大切さにも気づかせたい。

(3) 資料について

本資料は、図書館での図書破損の問題を資料化したものである。図書館員の「本を大切にしてほしい。本の被害をなくしたい。」という悩みと「みんなが利用しやすい図書館にしたい。」という願いを通して、きまりやマナーを守り自他の権利を大切にすることの大切さを考えることができる資料である。図書館は児童にとっても身近な場所であり、自分たちの問題としてもとらえやすい。

(4) 指導にあたって

「少しくらいいいだろう。」「他の人もしているから。」などという軽い考えや心の弱さは、誰もが多少はもっているものである。しかし、みんながそういう気持ちで行動してしまうと、結果的に取り返しのつかない事態を引き起こしてしまったり、自他の権利が奪われてしまったりすることがあるということを考えさせたい。そこで、資料範読後に本文の図書被害の金額をふり返ることで図書の被害の深刻さを実感させ、図書破損のせいで雑誌の貸し出しが不便になったことに気づかせるようにする。

展開 では、みんなの本を守るため、みんなが本を利用しやすくするためにはどうしたらよいかを、図書館員の気持ちを考えながら話し合わせ、ねらいにせまっていきたい。みんなで意見を交流し、多様な考えに触れることで、自分の考えを深めさせるようにする。

展開 では、図書館だけではなく公共物全体の使い方について考えさせ、きまりやマナーを守ることの大切さをより広い視野でとらえさせるようにしたい。校内や校区内での落書きやポイ捨てなどの写真を見せることで、自分たち自身の問題としてとらえさせ、今後の生活についても考えさせるようにしたい。

終末では、条例をつくってポイ捨てをやめさせようとしたがうまくいかなかった例を話

すことで、きまりだけではなく一人ひとりのマナーが伴わなければ公共物を大切にはできないことを考えさせたい。そして、これからの実践意欲へとつなげたい。

なお、本資料の冒頭には、主人公が書店での写真撮影を目撃する場面が描かれているが、本時では図書館での図書被害に焦点をあてたいので、冒頭の部分を省略して資料提示を行う。また、資料の終末では、図書館員の目の前で雑誌を切り抜こうとして注意を受け、むっとした顔で立ち去る女性が登場するが、児童の感覚とはほど遠い面があり、その部分も省略して資料提示を行う。

4 本時の学習

(1) ねらい

図書館員の悩みと願いについて話し合うことを通して、公德心をもって自他の権利を大切にし、進んできまりやマナーを守ろうとする実践意欲を育てる。

(2) 展開

| | 学習活動 | ○主な発問 ・ 予想される児童の反応 | ・指導上の留意点 評価 |
|---|--|--|---|
| 導 入 / 展 開 / 展 開 / 展 開 | 1 「公共物」について学習することを 知り、「公共の場所」を挙げる。 2 資料を読んで、自分の考えをもち、ペアや全体で話し合う。 | ○公共の場所には、どのような所がありますか。 ・学校 ・ 駅 ・ 図書館 ・ 公園 ・公民館 ○図書館員が「心を決めかねている」のは、どういう思いからですか。 ・雑誌をカウンター内に置くと利用がしにくいから、みんなが利用しやすいようにしたい。気軽に借りてほしい。 ・雑誌を元の棚にもどすと、また被害があるかもしれない。本を守りたい。本の被害をなくしたい。 みんなの本を守るため、みんなが本を利用しやすくするために、図書館員はどうしたらよいでしょうか。 ・被害を増やさないために、今のままカウンターの中に置く。 ・自由に見られるように、元の棚にもどす。 ・被害が減るように、ポスターなどで注意を呼びかけて、元の棚にもどす。 ・元の棚にもどして、被害があったら弁償してもらう。 | ・「公共」の意味を確認する。 ・公共の場所を挙げることで、価値への方向付けを行う。 ・図書館員の悩みと願いを確認し、中心発問へとつなげる。 ・本文の金額を提示し、図書の被害の深刻な状況を実感させる。 ・「カウンターの中に置く」「雑誌を元の棚にもどす」の心情ものさしに自分の考えと理由を書きこませ、ネームプレートで黒板に表示し、主体的に話し合いに参加できるようにする。 ・まず自分と反対意見の人と交流し合い、多様な考えに触れることで、考えを深めさせる。 ・利用者の自分勝手な行動で、他の利用者の権利が奪われていることをおさえる。 ワークシート 話し合い活動での発言 |
| | 3 公共の場所や物の使い方について考える。 | 公共のきまりやマナーを守らない人は、どう思っているのでしょうか。 ・少しくらいいいだろう。 ・自分の物ではないからいい。 ・他の人もやっているから。 | ・「少しくらい」「自分の物ではないから」という軽い考えや心の弱さがあることに気づかせる。 |

| | | | |
|-------------|----------------------|---|---|
| 展 開 | 4 本時の学習をふり返し、まとめを書く。 | <p>みんなの周りでは、きまりやルールは守れているでしょうか。公共物を使う時は、どのようにすることが大切でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のことを考えて使う。 ・自分の物と同じように大切に使う。 ・少しくらいいいだろうという考えをやめる。 ・お互いが思いやりの心をもつ。 <p>今日の学習で学んだことや、これから書くことを書きましょう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・校内や校区内の写真を見せることで、自分たちの生活をふり返らせる。 ・図書館だけでなく、公共物全体で考えさせることで、今後の生活につなげる。 <p>ワークシート</p> |
| | 5 教師の説話を聞く。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・きまりをつくっても違反者が減らなかった例を話し、一人ひとりの心がけ（マナー）が大切だという気持ちを深め、実践への意欲につなげる。 |
| / 終 末 | | | |

5 評価

公德心をもって自他の権利を大切にし、進んできまりやマナーを守ろうとする気持ちを高めることができたか。